

## P21b 高銀緯分子雲 MBM55 の近赤外撮像観測

岸辺 紀幸、伊藤 洋一、向井 正 (神戸大自然)

高銀緯分子雲は、比較的距離が近い分子雲と考えられる上、背景に銀河面がないために背景星が少なく、星形成を研究するためには適した領域である。しかし、これら高銀緯分子雲は、現在 100 個以上確認されているにも関わらず、一般に密度が薄い ( $1 < A_V < 5$ ) という特徴もあり、星形成が確認されているものは数個しかない。

そこで本研究では、高銀緯分子雲 MBM55 に付随する YSO 天体を探査した。MBM 55 は高銀緯では最大級の質量をもっており、密度が濃いところがあるとされている。しかし、X 線・可視・電波を用いた過去の観測では、星形成が確認されていない。本研究では、今までに行われなかった近赤外観測で、YSO 天体の検出を目指す。観測は 2002 年 7 月に IRSF 1.4m 望遠鏡と近赤外 3 バンド同時撮像カメラ SIRIUS を用いて、 $30' \times 30'$  の領域について行われた。

本講演では、YSO 天体の検出個数・星密度などをもとに、高銀緯分子雲における星形成の描像について議論する予定である。